

注 意 報

4 病 第 2 2 号
令和 4 年 7 月 2 7 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

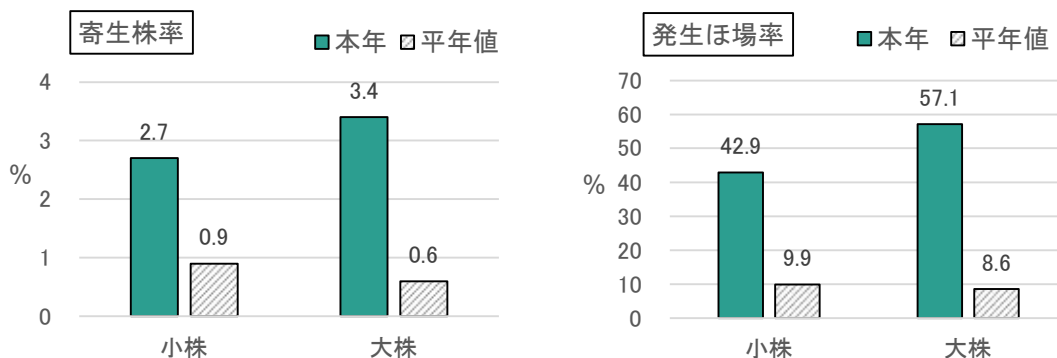
下記のとおり発表しましたので送付します。



病虫害発生予察注意報第 4 号

- 1 作物名 **ネギ等野菜類、豆類、花き類**
- 2 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **7月～**
- 5 発生量 **平年比多い**
- 6 注意報発令の根拠

(1) 7月中旬に実施したネギの巡回調査における寄生株率は、小株 2.7%（平年値 0.9%）、大株 3.4%（例年値 0.6%）、発生ほ場率は小株 42.9%（平年値 9.9%）、大株 57.1%（例年値 8.6%）と、いずれも平年比及び例年比高い（+）（図 1）。



注) 小株: 葉長40cm未満、大株: 葉長40cm以上。大株は例年値

図1 ネギにおけるシロイチモジヨトウ発生調査結果(7月中旬)

(2) フェロモントラップへの誘殺虫数(6月第4半旬～7月第3半旬の合計値)は、京田辺市で42.3頭(例年値27.5頭)と例年比多く(+)、亀岡市で86.1頭(平均値46.0頭)、京丹後市で70.8頭(平均値30.4頭)と過去4年間の平均の約2倍となっている(図2)。

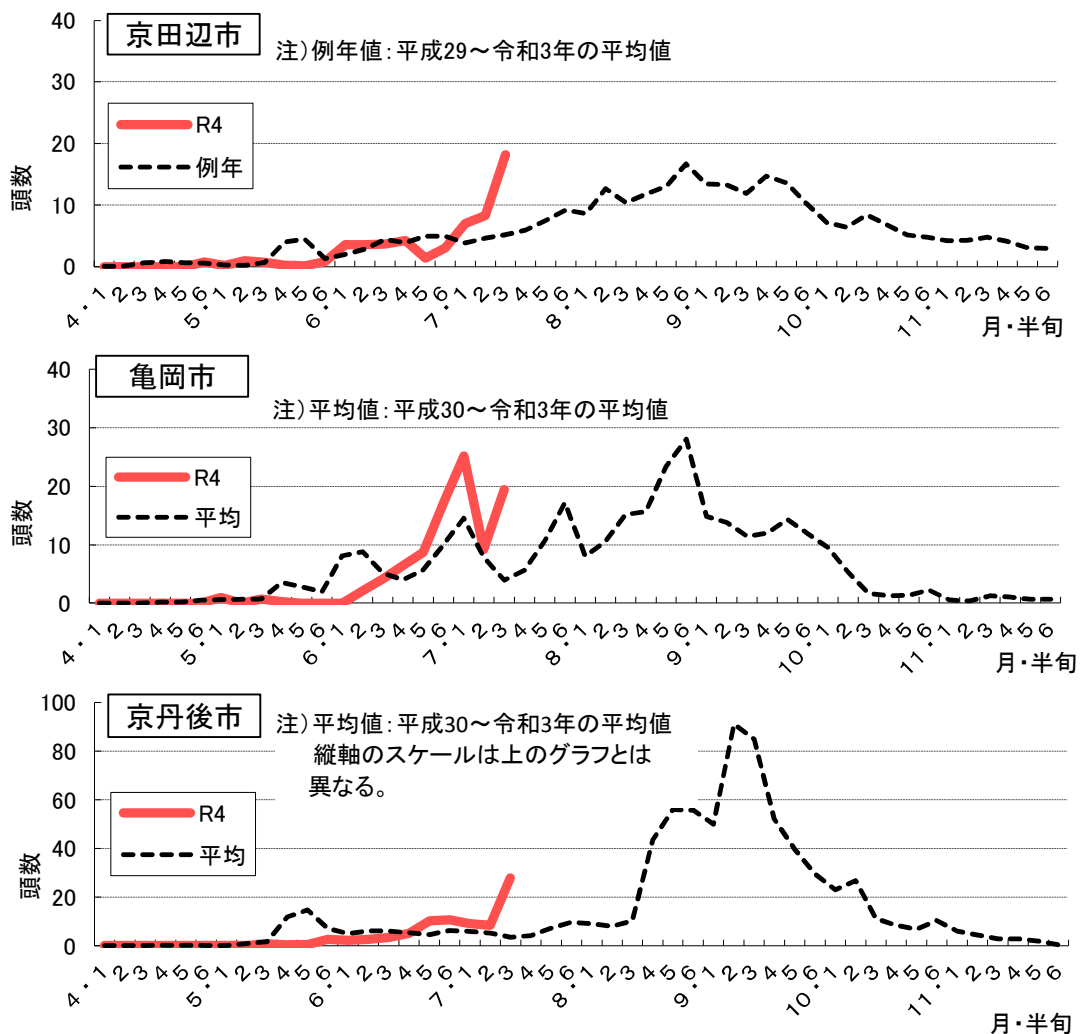


図2 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

(3) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

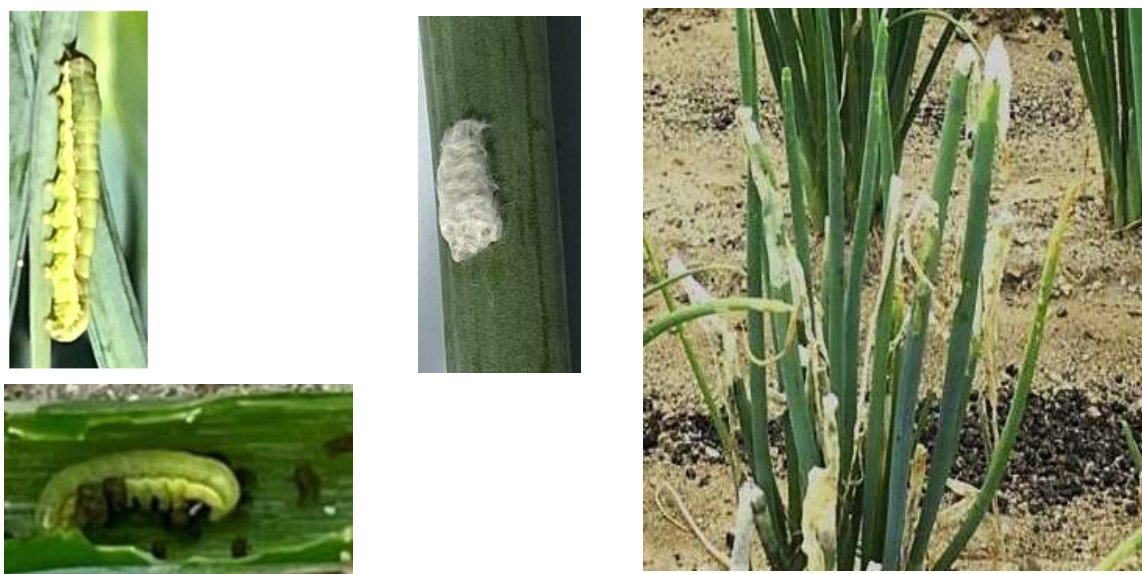


写真 シロイチモジヨトウ幼虫(左2枚)と卵塊(中)、ネギの被害(右)

7 防除上の留意事項

- (1) 若齢幼虫と比べ、中老齢幼虫の薬剤感受性は低下し、ネギでは葉の内部に潜り込み薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等適切に処分する。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外にも野菜類、豆類、花き類を加害するので注意する。
- (4) 薬剤散布は表1を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用は避ける。平成29年に実施した薬剤殺虫効果試験の結果を記載した、平成29年9月21日付け「病虫害発生予察注意報第4号」を参照のこと。
(http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h29chui4_shiroichi.pdf)
- (5) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。
(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。
- (6) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色防蛾灯を組み合わせた防除を考慮する。

表1 「ネギ」でシロイチモジヨウトに登録のある主な農薬（令和4年7月20日現在）

IRACコード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネット45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	
	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トレボンEW	1,000倍					
	テルスター水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
4A	(28) スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍、 0.5L灌注/ セルトレイ、ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内(但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
	(28) アベイル粒剤	40g/ セルトレイ、ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	株元散布	モスドラン(IRACコード4A):3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和及び定植当日までの株元散布は合計1回以内) ヘネビアOD(IRACコード28):4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
	(28) キックオフ顆粒水和剤	100倍 0.5L灌注/ セルトレイ、ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	フレバノン(IRACコード28):4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内) スタークル(IRACコード4A):4回以内(但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
6	(15) アファーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	(15) アファームエクセラ 顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	アファーム(IRACコード6):3回以内 マッチ(IRACコード15):3回以内	
	(28) アニキ乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
11A	(28) ボリアムガンダム 顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	アファーム(IRACコード6):3回以内 フレバノン(IRACコード28):4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)	
	エコマスターBT	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	
	ゼンタリー顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で登録
	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で登録
13	フローバックDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	
	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	マッチ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
18	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
	ロムダンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	(22B) アクセルキングフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	ハチハチ(IRACコード21A):2回以内 7ケル(IRACコード22B):2回以内	
22A	トルネードエースDF	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	ファイントリムDF	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
28	プレバノンフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)	
		2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内(但し、株元灌注は1回以内))	
	ベネビアOD	20倍	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内(但し、株元灌注は1回以内))	
	ベリマークSC	400倍、 2,000倍、 株元灌注(0.5L/㎡)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内(但し、株元灌注は1回以内))	
	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ヨールフロアブル	2,500～5,000倍 25倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内(但し、灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内)	
30	グレーシア乳剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	プロフレアSC	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
UN **	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内	
交信かく乱剤 ***	コンフューザーV	100本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	—	—	—	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒にディスプレイを巻き付け固定し圃場に配置する。
	ヨトウコン-S	100～500本/10a (露地)	シロイチモジヨウトの発生初期～終期	—	—	—	作物上に支柱等を用いて固定する。

*殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、コードが異なる薬剤を使用することで、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

**作用機構が不明あるいは不明確な薬剤

***IRACの分類に該当しないもの